

NPO法人

第87号

芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1578
TEL 090-4135-3193 FAX 055-288-2722 HP <http://ashiyasu.com> メール mail@ashiyasu.com

2025 南アルプス開山祭、夏山シーズンの幕開け

2025 年 6 月 28 日

芦安ファンクラブ 入倉 利也

6月28日、南アルプス市広河原にて、夏山の訪れを告げる「南アルプス開山祭」が澄み渡る青空の下、登山者や関係者を迎えて盛大に開催されました。

市長や来賓による挨拶に続き、芦安小・中学校の児童生徒による清らかな歌声が、山々に響き渡る合唱として披露されました。

その後、南アルプスで尊い命を落とされた山岳遭難者を追悼し、参加者全員による黙とうが捧げられ、代表者の手によって白い花が慰霊の場へ供えられました。

式のクライマックスでは、夜叉神太鼓の力強い音に包まれる中、百年前の装束に身を包んだ案内人による伝統の「蔓払い」の儀式が行われました。束ねられた蔓に斧が振り下ろされる瞬間、拍手が湧き上がり、払われた蔓の門を登山者がくぐることで、山への敬意と安全祈願の心をひとつにして式を締めくくりました。

式典後には、甲斐ヶ峰庵の皆さんによるお蕎麦のふるまいもあり、参加者一同、美味しくいただきました。

さらに、芦安小・中学校の児童生徒は広河原(千石島)園地へ移動し、植物観察や木こり体験を通じた自然学習会に参加し、充実した夏山の初日を満喫しました。

今シーズンも、安全で実りある夏山になりますように、心から願っています。



木こり体験



芦安小学校 1学期の自然体験学習

芦安ファンクラブ

堀内 訓

毎年芦安小学校では、学校周辺の自然や歴史を教材とした学習をしています。

今年度は低学年はこけテラリウム制作、中学年は夜叉神峠登山、高学年は白根御池・二俣分岐登山を企画しました。3つの企画とも子供たちが共に協力し、励まし合いながら目的を達成させることができました。

① 森林体験学習 「こけテラリウム制作」 2025/5/15 1年生 2名 2年生 6名、 保護者 9名 教員 5名

透明なガラス容器の中で植物を育てる『テラリウム』。ガラスケースの中に小さな自然の世界を創り出すことができ、インテリア性も高いことから、最近では好みに合わせたテラリウムを手作りする人も増えてきているようです。そこで今回は、テラリウムの魅力、自作する方法や美しい状態を維持するポイントなどを一緒に学びました。



コケの観察です。霧降で水をかけると色を変え、ムクムクと葉を広げます。



親子で協力して制作開始です。どんなレイアウトにするのかな。



こけテラリウムの完成です。みんな笑顔で、はいポーズ。

こけテラリウムの作り方手順

1.土台を作る

まずは土台となる土を瓶に流し込んでいきます。流し込み終わったら、スプレーを使って土をよく湿らせます。土台の土は平らに均一になるように流し込むと、コケや装飾品を配置しやすくなります。スプレーは土の表面がややしっとりする程度に、すこしずつ湿らせるようにしましょう。

2 コケを植え付ける

ヤマゴケを取り出し、好みの形にカットします。余分な土は、はさみで面取りすると植え付けやすくなりますよ。形を整えたら、ピンセットでそっと瓶の中へ入れます。見た目をきれいに保つために、コケを詰めすぎないように気を付けましょう。容器の中にゆとりを持たせることで、コケが成長したあとも長く楽しむことができます。

3.装飾品の設置

ヤマゴケの上に石を配置します。ピンセットでコケに押し込めながら、丁寧に置いていきます。瓶の中にどんな庭園を作りたいかを頭の中で描いておくと、きれいに作りやすくなります。コケの上に装飾品を配置するときは、ピンセットでしっかり押し込めるようにしましょう。

4.仕上げ

続いてコスギゴケ、ヒノキゴケを植えていき、最後に全体のバランスをみて、小物を配置します。瓶をいろんな角度で眺めながら、バランス調整を繰り返します。最後にフタを閉めて、完成！

<1年生親子の感想>

- ・親も参加でき、よい思い出になりました。
- ・父が小学校の時も同じように父親と一緒に作ったひこうきの授業を今でも覚えているので、今回のことを子どもの思い出として残ってくれたらうれしいです。
- ・コケを観察したり、入れたりして、作ったのが楽しかったです。
- ・父ちゃんと母ちゃんと一緒にできてうれしかったです。



<2年生の子どもの感想>

- ・つぎは、自分の家でも作って宝物にしたいです。
- ・コケに水をやると、スターみたいにひらきました。
- ・こけテラリウム作りは、めったにできない機会だと思いました。
- ・家でも、コケを集めて瓶に入れたら作れると思いました。
- ・いつもは作れないので、作れて嬉しかったです。
- ・お家の人とできて、嬉しかったです。
- ・色々な種類のコケがあったので、すごいなと思いました。
- ・コケの種類を知れてよかったです。
- ・お母さんと作ったけど、お母さんのこけテラリウムを見て、ぼくもお母さんくらい上手に作りたいなと思いました。

<2年生の保護者の感想>

- ・親子でアイデアを出しながら作れたのが、思い出になりました。
 - ・初めてこけテラリウム作りを体験しました。バランスが少し難しかったけど、自分が好きなようにコケや石をならべるのが楽しかったです。
 - ・こけテラリウムづくりのおかげで私たち親子の世界が広がり、楽しいこと、共有できることが増えました。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。
 - ・芦安には、たくさんの自然があるので、大人になるまでにこのような体験ができて、自然に興味をもって、今後も生活してくれたらいいなと思います。
 - ・普段、気にもとめてなかったコケにも一つ一つに表情があり、お水をかけてあげるとまた違った様子が観察できるなど、新たな発見にびっくりしました。
 - ・芦安の瑞々しい空気のおかげで、きれいなコケがたくさん生えているのだと思い、これからはコケを見るたびに愛おしく感じるかもしれません。
- 素敵な体験をありがとうございました。



② 夜叉神峠登山

2025/6/6

3年生 4名 4年生 3名、 保護者 10名 教員 4名

夏山シーズンの到来。子供たちの歓声とともに峠に着くと白根三山が笑顔で出迎えてくれました。

毎年4年生が登山道の樹木に樹名板を設置してくれます。

今年は4本。リョウブ、マルスグリ、モミ、ミズナラです。

子供たちが工夫した樹名板を見て登山者は微笑みながら樹木の名前を覚えています。

皆さんも、夜叉神峠にお越しの際には、是非見てください。



- ・ 樹名板を作るときに、マルスグリを調べて、とげが生えていると聞いたけど、実物のマルスグリを見てこんなにとげが生えていると知り、びっくりした。

- ・ 初めての樹名板が楽しみで、楽しくできてよかった。

- ・ ミズナラの葉っぱやどんぐりが見られてよかった。何でミズナラのくきが短くて、5ミリの長さなのか不思議だった。

- ・ 登っている時に、上から見る景色（南アルプス市）がとてもきれいで感動した。



- ・ 4年生が樹名板の話をしている、私たちも4年生になったら上手に話したいと思った。

- ・ 「パラダイス」や「ぐるぐるまきまきマフラー」「よりかかりすぎ」などおもしろい名前ばかりだった。



- 炭焼き窯では、女の人なのに、50キロのものを運んでいるなんて、私には無理だと思った。
- 山に仕事に来る人たちが、山の神さまにおそなえするのがかんだうした。



- 山のとっぺんで「バットとモス」のゲームをしたのが楽しかった。おにからよけたのがうれしかった。また4年生になったら、もっとよけて楽しみたい。

- ちょうじょうでママたちとおべんとうを食べてよかった。
- 北岳と間ノ岳と農鳥岳がきれいに見られて感動したし、うれしかった。
- 頂上に着いて、白根三山がとてもきれいで感動した。



【シカの食がいを見て】

木のかわがはがれていてびっくりした。シカの食べ物が少なくなっていてシカがかわいそう。まわりの草や花も食べられていて、しょくぶつがかわいそうだなと思った。

③ 白根御池・二俣分岐登山

2025/7/3～4

5年生 4名 6年生 2名、 教員 3名 保健師 1名

児童がこれまでの芦安小での経験と高学年としての集団の力を高め、お互いを思いやる心を育み、また、自分をみつめながら登山を行いました。

白根御池までの急登「カネメの坂」(この坂を歩荷して荷物を運ぶと、金になる)では声を掛け合い、白根御池周辺では、美しい自然を堪能し、大樺沢の雪渓に魅せられてきました。

この経験で、子供たちは間違いなく成長しました。



- 登山中にはげましたりできてよかった。
- 登山中、声かけをがんばってやった。お客さんにあいさつができた。
- 登山中、こわいところもあったけど、あきらめないでがんばって白根御池小屋まで無事到着できてよかった。



- 花の話をちゃんと聞いて、メモをとれてよかった。
- 自然学習で、アズマヒキガエルが16cmにもなること、10mも卵を産むことに驚いた。
- 池が真っ黒になるくらいおたまじゃくしがいて、びっくりした。



- 鹿について学べてよかった。
- 山小屋の人たちの仕事も知ることができた。大変な仕事なんだと思った。
- シカの学習では、角の生え方や恋の時期などがわかった。

- 小屋のご飯がおいしかった。
- 小屋のみなさんがご飯を用意してくれてうれしかった。
- 富士桜パーク、最高！



- 花カルタで勝ててうれしかった。
- 花の名前をたくさん覚えられた。
- きれいな花がいっぱいあった。



- 雪の厚さがすごくてびっくりした。どれだけ下に掘っても貫通しなかった。雪渓で大きい雪の玉を作れてよかった。すべったら大変なことになると分かった。
- 雪渓に行って雪で遊べてよかったし、ひさびさに雪の上に乗ったのが楽しかった。
- 雪渓の自然体験では、雪だるまを作ったり、雪うさぎを作ったりできて、うれしかった。



- カレーの後に芦安ファンクラブからソフトアイスクリームをプレゼントしてもらった。とてもおいしかった。
- 朝一番に北岳を、また、雪渓のところでバットレスを見られてよかった。



歴史ある古道復活に向けて「芦安の旧道を復旧しよう！」

2025 年 5 月 18 日

芦安ファンクラブ 堀内 訓

皆さんは芦安にある旧道を知っていますか？

芦安第2駐車場から広河原に向かうバスやタクシーの車窓から、茶色の板に白い文字で書かれた道標を見たことがあるでしょう。そこには、芦安の旧道があり、南アルプス林道ができるまでは、主要な生活道路として使われていたのです。

今も道標は設置されていますが、道が倒木で塞がれたり、崩れたりしている状態でした。この旧道を整備して安全に歩ける状態にして、多くの人たちに「芦安の古道」を歩いてもらおうという計画が立てられました。まず第1段階として、倒木の撤去、徒渉箇所の橋の敷設、倒れた道標の設置を行いました。また、ルートに赤テープも付けましたので、道迷いをすることもなくなりました。

秋には「古道歴史学習会」を行いながら、整備を行う予定です。秋の紅葉を楽しんだり、冬には新雪に獣の足跡を見つけたりしながら、「芦安の古道」を楽しみましょう。こう、ご期待を！



倒木で道がふさがった。あれ、道がなくなっている。



倒木を処理して、崩れている所には階段を付けました。川には橋も。これで安心。



倒れていた道標も会長が修理をしてくれました。道迷いの心配がなくなりました。



道具のメンテナンスも忘れません。



第 80 回登山教室「開山を迎えた残雪の北岳」

2025 年 6 月 28-30 日

芦安ファンクラブ 岩間 修

6 月 28～30 日にファンクラブ登山教室で北岳に行ってきました。

1 日目 広河原～白根御池小屋

2 日目 白根御池小屋～北岳山荘

3 日目 北岳山荘～北岳山頂～広河原

梅雨明けしていないのに三日間とも快晴、例年の 6 月の天気じゃありません。

驚いたのは、大樺沢に雪が無い。この時期にほぼ夏道が出ているなんて、通常アイゼンを付けて雪渓を登るのですが。

嬉しかったのは、キタダケソウが結構残っていた事です。例年この時期だと、あの岩の手間に 2・3 株、山頂から降りた所に 1・2 株という感じなんです。それが「あっ、あそこに有る・こっちにも有る」と咲いていました。こんなに咲き残っているのは珍しい。

失敗は雪渓の渡渉中、崩壊に合った事です。幸い怪我などには至りませんでしたが、私の注意不足でした。それでもお客様には喜んでいただき、良かったと思います。



第 80 回登山教室に参加して

三重県西井 西井聡さん

こんにちは。

先日の講習では、芦安ファンクラブの方々には、大変お世話になりました。楽しく安心して安全に登山する事ができ感謝しています。

第 80 回教室は「開山を迎えた残雪の北岳」というコース名でした。

まさか、開山祭の日とは。

セレモニー前に明治時代の露払いに扮する方々と写真撮影など、終了後はそばをご馳走になりました。滅多にみられない開山祭を見学できてよかった。

今回の講習では、ちょっと経験出来ないこともありましたがガイドさんが臨機応変に対応されたので、安心でした。

小屋では残雪が残っていたので、雪の歩き方の指導など、また、屋内では歩いてきた登山道に咲いていた花の名前など、丁寧に説明していただきありがとうございました。

簡単ですが、いろいろお世話になりありがとうございました。



おいけ自然観察記・春から初夏

芦安ファンクラブ（白根御池小屋） 吉澤 香理

まだ雪の残る北岳を仰ぎ見る 5 月下旬、広河原から御池へと続く森に入るとニリンソウが小さな白い花を風に揺らしていました。早春のこの時期、林床にたえずむツバメオモトやコミヤマカタバミ、そして鮮やかなホテイランなどは登山者にみられることもなく美しい花を咲かせます。

雪が残る小屋の周りではサンリンソウやヒメイチゲがぼつりぼつりと花をつけ、ミネザクラが薄ピンク色の花を咲かせ始めていました。この時期ヤナギたちの花は満開です。小さな白い花は、いずれ綿をまとった種子になり初夏の風とともに飛んでいきます。

人気のない静かな小屋の周りでは、動物たちがのびのびと過ごしていたようです。

地面にはたくさんのノウサギのフンが転がり、ルリビタキは地面に降りては虫を捕らえ、岩の上ではキビタキは高らかに歌っていました。

木々の芽吹きも始まらない頃、御池の冷たい水の中で今年もアズマヒキガエルの産卵が始まりました。大きなものでは体長 16cm 程にもなる両手の平サイズのカエルです。

彼らは地中の温度が上がると冬眠から目覚め、自分が生まれた水辺にやってきます。

オスは池の中でグググと鳴きながらメスを待ち、動く者を見つけると性別関係なく抱きつきます。晴れてペアとなった 2 匹は産卵を始めますが、体の大きなメスほどたくさんの卵を抱えているようで、ゼリーに包まれたチューブ状の卵は長いものでは 10m 程にもなるそうです。

いったいどうやってあの体の中に収まっているのでしょう…いつ見ても不思議で仕方がありません。

にぎやかな産卵は一週間ほど続き、池は絡み合った卵でいっぱいになりました。

繁殖が終わるとオスもメスも森や草地に戻り、再び夏まで短い眠りにつきます。静かになった池では、出遅れたらしきオスが一匹淋しくメスを待ち続けていました。

アズマヒキガエルの姿が見えなくなった頃、もう一種類のカエルの産卵も始まります。

朱色の体に虎模様の脚、体長 2～3cm 程のタゴガエルです。

タゴガエルは、直径 3～3.5 mmほどの大きく卵黄の詰まった立派な卵を数十個だけ産卵します。オタマジャクシはたっぷりの卵黄を糧に、その他の食べ物なしでも変態まで成長可能だというから驚きです。

6 月に入り、小屋の周りではミヤマキンポウゲやマイズルソウ、ヤツガタケタンポポなどが目立ち始め、森の中ではイチヨウランがひっそりと花を咲かせました。

そんな折、ホシガラスの不思議な鳴き声を耳にしました。フィルルルル…フィルルルル…フォイー…フォイー…稜線よく耳にする囁れ声とは違う、柔らかく震え何かを呼ぶような小さな歌声。針葉樹の枝先で歌っていたこの歌は、亜高山帯で繁殖する彼らのこの時期特有の歌だったのかもしれませんが。

この時期、冬を越したキベリタテハの成虫ががぼろぼろになった羽根で小屋の周りを飛び回ります。ダケカンバやドロノキ等の高い枝の先に産み付ける卵は、赤と黒の攻撃的な幼虫の姿を経て、やがてまた秋が来ると美しい蝶の姿で林内を切るように飛び始めます。

6 月半ば、山も小屋も瑞々しい新緑にすっぽりと包まれました。今年の新緑は本当に美しく胸がドキドキするほどでした。

新緑とともにゴゼンタチバナやカラマツソウ、ミヤマキンバイ、ウラジロナナカマド、キバナノコマノツメなど、夏の始まりを感じさせる花たちも咲き始めます。

この頃になると小屋の周りは昆虫でいっぱいです。今年は青い眼玉を背負ったエゾヨツメ(蛾)、美しいミントグリーンのオオミズアオ(蛾)、雨のあとの良く晴れた日には日本最大級のアリ・クロオオアリの結婚飛行も見られました。



アズマヒキガエルの産卵



オオミズアオ

いかつい顔をしたシラフヒゲナガカミキリも、気づくともう背中にくっついていたりします。

小屋の玄関付近にはウラジャノメが集まり始め、クモマツマキチョウが小屋の前を滑るように飛んでいく姿を初めて見る事ができました。しかし、暑さのせいでしょうか…今年はアサギマダラの姿をいまだに見る事ができません。

登山道にはたくさんのオトシブミの揺籃(ヨウラン)が落とされ、昆虫たちの一部は繁殖期真っ只中となりました。

7月、小屋の前では今年もミヤマハナシノブが薄紫色の花を咲かせ、楚々とした美しい立ち姿を見せてくれました。

小屋の周りは朝から鳥のさえずりとセミの鳴き声で大賑わい。ウグイスのさえずりが森のあちこちから聞こえ、メボソムシクイのさざ波のような声が絶え間なく響き、合間にはコマドリの大音声、シジュウカラの複雑なおしゃべり声も聞こえてきます。遠くではジュイジュイ！ジュイジュイ！ジュウイチも元気に鳴いていました。

早朝から夕方まで鳴いているのはエゾハルゼミ。ミョーキん・ミョーキん…ミョーケケケケ…何個体もが合わさって大合唱しています。

御池周りではこれまでこんなに鳴いていなかった気がするのですが、セミの生息地も標高を上げてきているのかもしれない。

7月半ば、山の緑もすっかり濃くなった頃、御池ではとうとうアズマヒキガエルの上陸が始まりました。

10日程で孵化した大量のオタマジャクシたちは岸辺を真っ黒に染め、今年の上陸は壮観だろうと想像していましたが、雨の降り続いた7月14日、ほとんどのオタマジャクシが変態し津波のように上陸を開始。あっという間に草間に姿を消して行きました。

上陸する頃は小指の爪の半分ほどの驚くほどに小さなカエルです。ほんの2か月足らずで巣立ってしまうカエルたちの何割が無事に育つのでしょうか。立派に成長した元気に帰ってきて欲しいと思います。



ミヤマハナシノブ

御池ではトンボの羽化も見られます。よく目にするのは大きな瑠璃色のオオルリボシヤンマとメタリックグリーンに輝く中型のタカネトンボです。

池のほとりのダケカンバ、ハンゴンソウ、時には看板にまで足を伸ばし、まだ薄暗い早朝からそこかしこで羽化が始まります。

ヤゴの背中が割れトンボが頭を出し、腹部や羽根が少しずつ伸びていきます。半透明だった体色が徐々に色づき…やがてかすかに羽根を震わせたかと思うと、ふわりと宙に飛び立ちあっという間に森へ飛び去ってしまいます。秋になり成熟したトンボが産卵に戻るまで池はつかの間静かになります。



タカネトンボの羽化

今年も水辺に姿を現わしてくれたのはハコネサンショウウオ。ぽこっと飛び出した目に焦げ茶色の体、複雑に入り組んだ黄色の模様が鮮やかなサンショウウオです。

1匹は残念ながら事故で死んでしまいましたが、その際腹に卵を持っていたことがわかりました。

時期的にも小屋周辺の水辺に産卵のためにやってきているのではないかと考えていますが、いまだ幼体を見つける事ができません。

いったい彼らはどこで繁殖しているのでしょうか。実はひっそりと御池の中で命をつないでいるのかもしれないとわくわくしています。



ハコネサンショウウオ

生き物たちの躍動が最もまぶしい春から初夏のこの時期。

私が見つけた御池の生き物たちを、ほんの一部ですが紹介させていただきました。

生き物を知ること、見える景色はさらに深みを増すのだと思っています。

私もまだまだ発見の毎日です。

御池で一緒に生き物観察してみませんか。

希少野生動植物環境保全パトロール活動について

芦安ファンクラブ

竹本 清香

芦安ファンクラブでは、南アルプス市から、「希少野生動植物環境保全パトロール」という業務を受託し、令和元年より活動しています。これは、平成31年1月に高山蝶など15種が新たに指定希少野生動植物種として追加指定されたことを受け、その周知と保護啓発のため、広河原と北沢峠にて定期的なパトロールを行うというものです。

この活動が始まった当初は、パトロールに携わるメンバーも翔んでいるものは全て写真に収めるなどして蝶も蛾も区別がつかない状態からのスタートでしたが、芦安ファンクラブの理念である「知ることが守ること」を体現するように、徐々に図鑑片手に同定ができるようになり、最近ではより詳しい調査活動ができるようになってきました。特に、メンバーの多くがクモマツマキチョウに魅せられて、成虫はもちろん、卵、幼虫、蛹を探して楽しみながら調査活動を行なっています。

私は、かつて10年ほど前に、広河原の野呂川沿いの一角にミヤマハタザオが一面にあり、そこにクモマツマキチョウが乱舞する光景を見たことがあります。新緑の中にオレンジ色が映えて、その美しさが今でも目に焼き付いています。しかし、その場所は度重なる台風で大きな被害にあい、一面のミヤマハタザオも、蛹で越冬するクモマツマキチョウも、共に皆流されてしまいました。また、近年の温暖化によって、クモマツマキチョウの羽化の時期も徐々に早まっているという感覚もあります。

この高山蝶パトロールの活動を通して、今後も南アルプスにおけるクモマツマキチョウの個体数の変化についても気にしながら観察を続け、自然保護活動に繋がっていきたいと思います。



保護啓発活動



クモマツマキチョウ

芦安の名所紹介

【夜叉神峠の道】

芦安ファンクラブ 堀内 訓



耕地の少ない山峡の集落、芦安地区の長い歴史から見ると経済も文化もすべて南アルプスの山々に結びついてきました。古くから生活の糧を山から得る手段として、伐採、木材生産、炭焼、狩猟等の山仕事のために、また安全に作業ができ、たくさんの獲物に恵まれるように、要所には「山の神」を祀りながら山道が出来上がりました。これらの道は生活道路としての機能を持つために、地形をよく読み、最も楽に目的地まで行けるように合理的に造られていて、現在でも大部分の道が登山道として使われています。

遙か野呂川の鮎差や広河原が、豊かな森林資源に恵まれていることを知っていた芦安集落の人々は前山の夜叉神峠に登り野呂川に下ったり、また杖立峠や鳳凰山、広河原に向かうために現在の道を作りました。かつてこの道を鋸や斧、時には鉄砲を持った男たち、それに生活物資や出来上がった木製品、炭等を背負った女性たちが額に汗しながら、また近代登山を日本にもたらしたイギリスの宣教師 W. ウェストンもこの道を歩んだのです。